FEED ONE

2020年３月期
決算説明会

2020年5月29日

フィード・ワン株式会社

東証１部　証券コード：2060

新型コロナウイルス流行の影響

飼料メーカーの顧客である畜水産事業者は食料の安定供給に重要な役割を担っていることから、農林水産省対策本部より新型コロナウイルス感染者が発生した時の対応及び事業継続に関する基本的なガイドライン※が通達されているほか、各種需給緩和対策の支援が実施されている。

※ガイドライン概要

- 予防対策の徹底
- 患者発生時の患者、濃厚接触者への対応
- 施設設備等の消毒の実施
- 業務の継続

当社業績への影響

- 現時点で新型コロナウイルスの当社業績に与える影響は軽微と考えておりますが、収束までには時間を要することが想定されます。
  そのため、今後の動向により業績予想に修正の必要性が生じた場合には、速やかに開示いたします。

説明項目

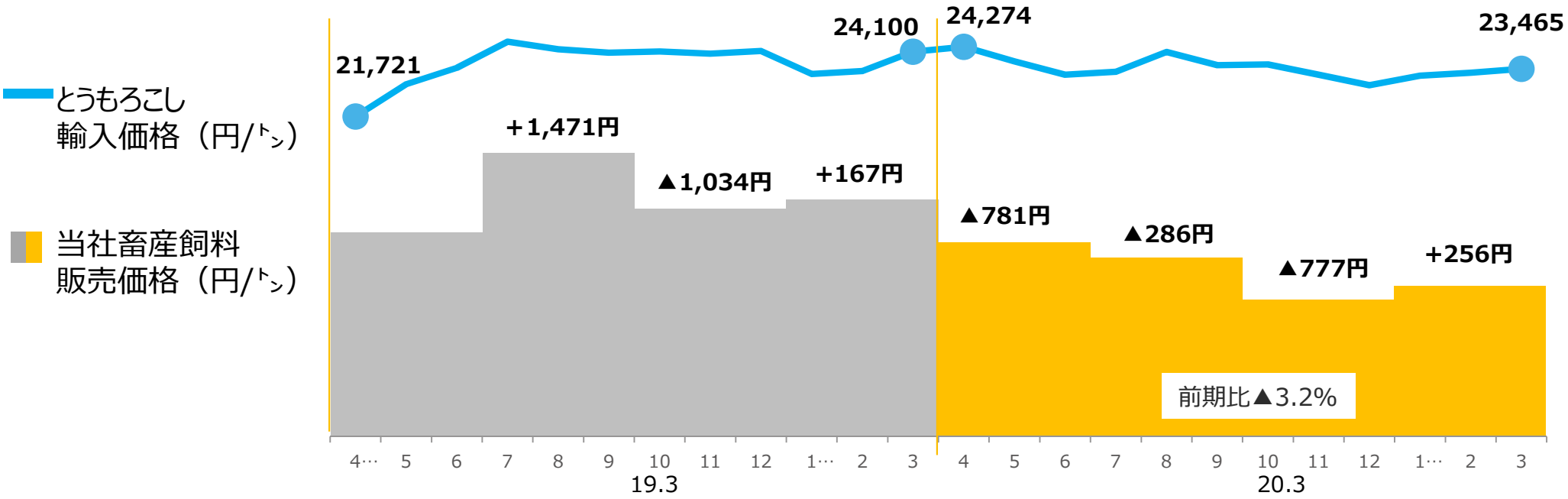
- 2020年3月期 決算
- 第2次中期経営計画の進捗
- 2021年3月期 業績予想
- 株式関連事項

2020年3月期 決算

畜産飼料の製品価格と原材料相場

畜産飼料の販売価格が低下し粗利益減少

- ▶製品原価における原材料費率は8割強
- ▶原材料の5割は輸入とうもろこしが占める
- ▶畜産飼料の販売価格は原材料相場の変動に準じて、四半期毎に改定を行う
- ▶配合飼料価格安定制度による基金の発動も原材料相場に準じて、四半期毎に行われる



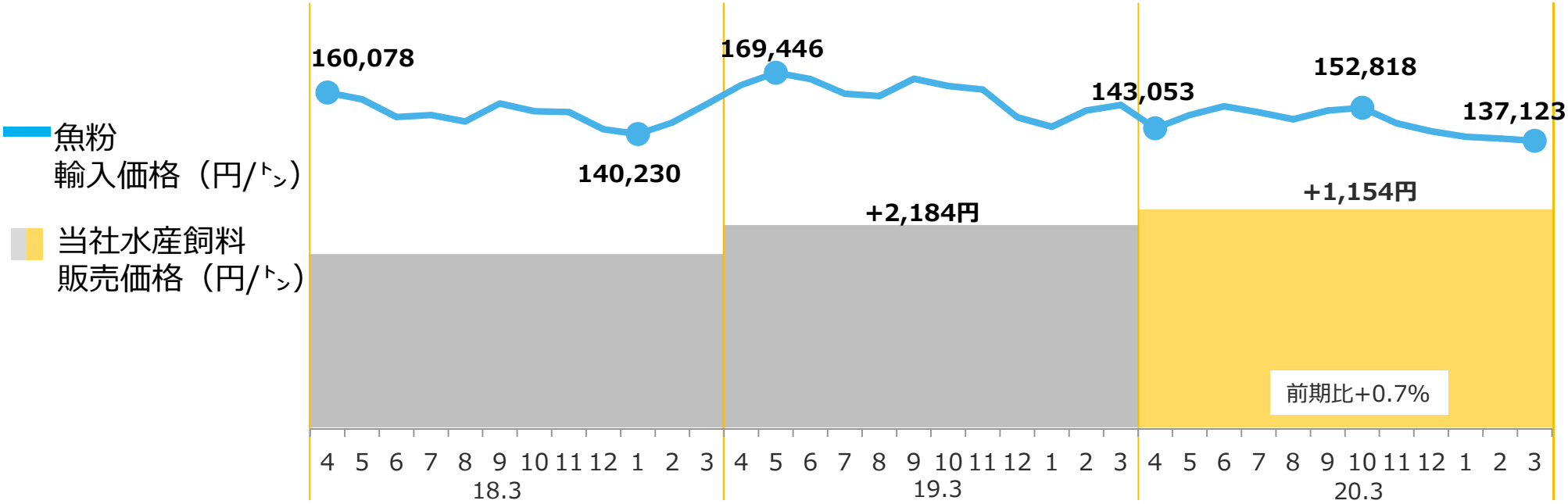
とうもろこし輸入価格(円/ﾄﾝ)	半期平均	23,474	23,838	23,720	23,296
	通期平均	23,656		23,508	

（出所：財務省貿易統計「品別国別表」のとうもろこし輸入価格）

水産飼料の製品価格と原材料相場

水産飼料は原価低減により粗利益増加

- ▶製品原価における原材料費率は8割強
- ▶原材料の4割強は魚粉が占める
- ▶定期的な販売価格改定は無く、魚粉相場の大きな変動等に準じて適宜改定を行う



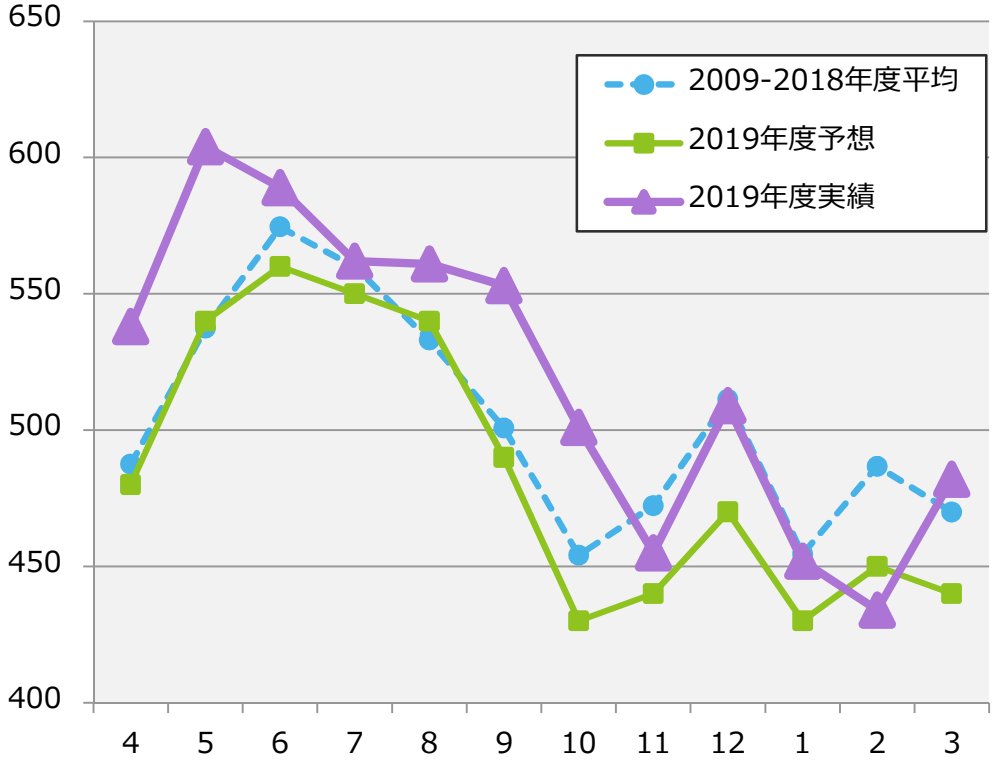
魚粉輸入価格（円/ﾄﾝ）							
	半期平均	152,621	147,494	164,000	153,729	149,213	142,352
	通期平均	150,058		159,865		145,782	

（出所：財務省貿易統計「品別国別表」）

畜産物の相場状況

豚枝肉は予想より堅調に推移、鶏卵はほぼ予想通りとなった

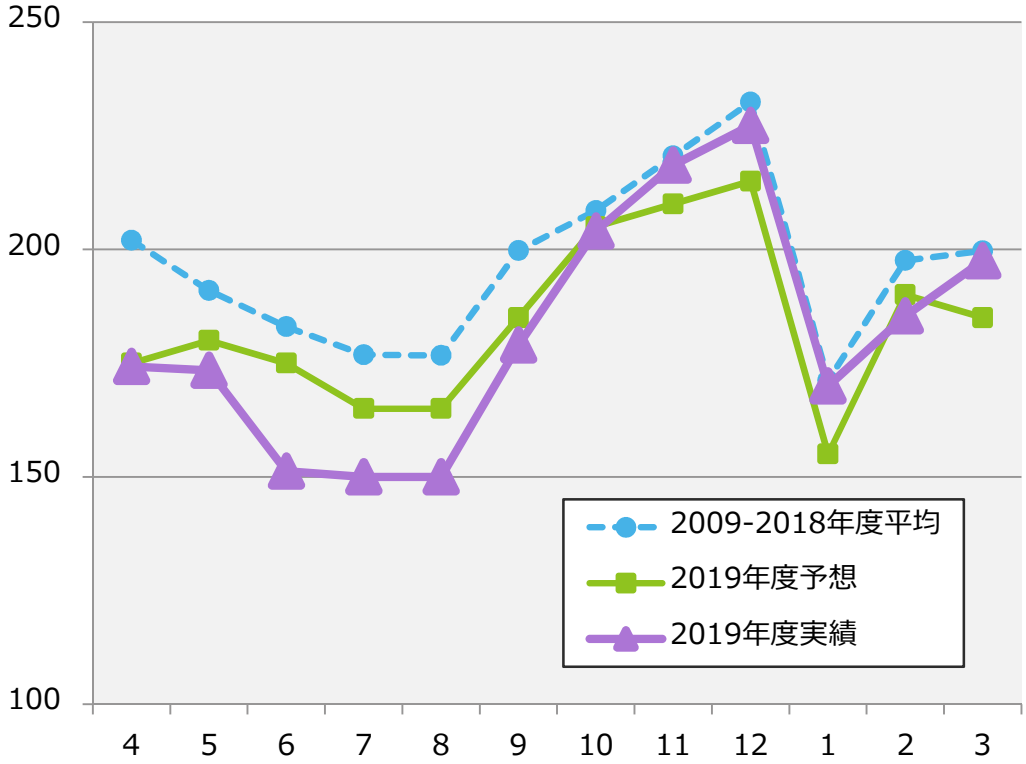
豚枝肉卸売価格（東京市場・上物）（円/kg・税込）



	2009-2018年度		2019年度予想		2019年度実績	
半期平均	532	475	527	443	568	472
通期平均	503		485		520	

（出所：農林水産省「食肉流通統計」）

鶏卵卸売価格（全農：東京M）（円/kg・税抜）



	2009-2018年度		2019年度予想		2019年度実績	
半期平均	188	205	174	193	163	200
通期平均	197		184		182	

（出所：JA全農たまご㈱調べ）

2020年3月期決算概要

大幅増益で経常利益は中計目標を1年前倒しで達成

（百万円、%）

	2019.3期		2020.3期			
		構成比		構成比	前期比	期初予想
売上高	212,886	100.0	**215,050**	100.0	＋1.0	235,300
売上原価	189,757	89.1	**191,401**	89.0	＋0.9	210,900
販管費	19,005	8.9	**18,234**	8.5	▲4.1	19,300
営業利益	4,123	1.9	**5,414**	2.5	＋31.3	5,100
経常利益	4,466	2.1	**5,737**	2.7	＋28.4	5,300
親会社株主に帰属する当期純利益	4,657	2.2	**3,842**	1.8	▲17.5	3,600
設備投資	3,811	-	**7,934**	-	＋108.2	13,434
減価償却費	2,395	-	**2,513**	-	＋4.9	2,532

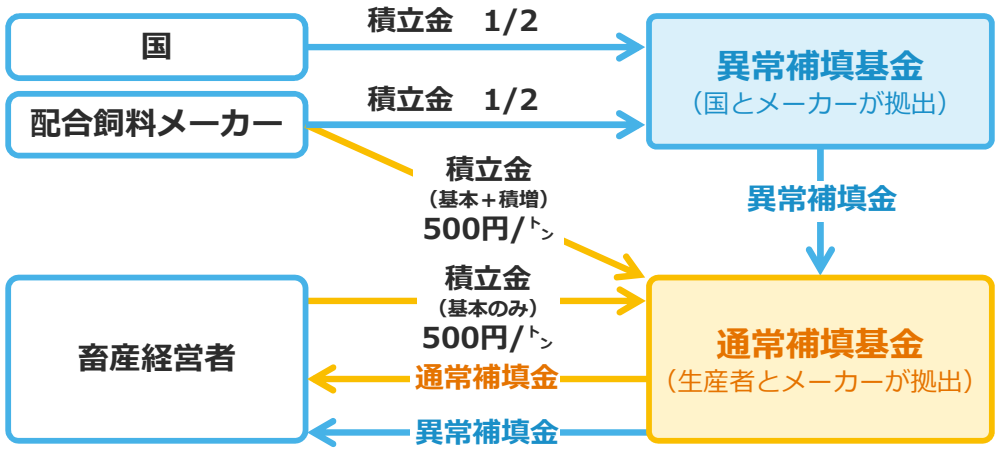
- 売上高　：畜産飼料の売価は下落するも水産飼料含め販売数量増加により微増
- 営業利益　：販売数量増加、畜産飼料の販管費減少、水産飼料の原価低減により増益
- 当期純利益　：特別利益の減少（前期　関西工場跡地売却等）により減益

【参考】配合飼料価格安定制度積立金について

配合飼料価格安定制度の現状

- ◆ 2006～2008、2012年度の配合飼料価格高騰時に基金の財源が枯渇し借入を行ったため、現在、配合飼料メーカーが通常補填に積み増しをして返済している
- ◆ 近年は基金の発動が少ないため財源が積みあがっており、積立金減額傾向が続いている

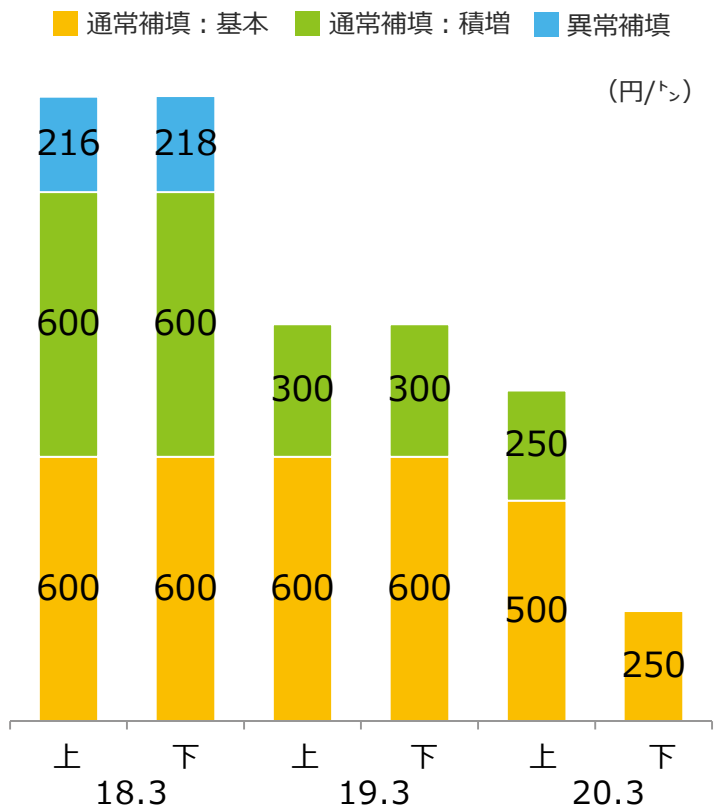
▶ 制度の仕組み（例：2020年3月期3Q）



▶ 発動条件

異常補填基金	輸入原料価格が直前１か年の平均と比べ115%を超えた場合
通常補填基金	輸入原料価格が直前１か年の平均を超えた場合

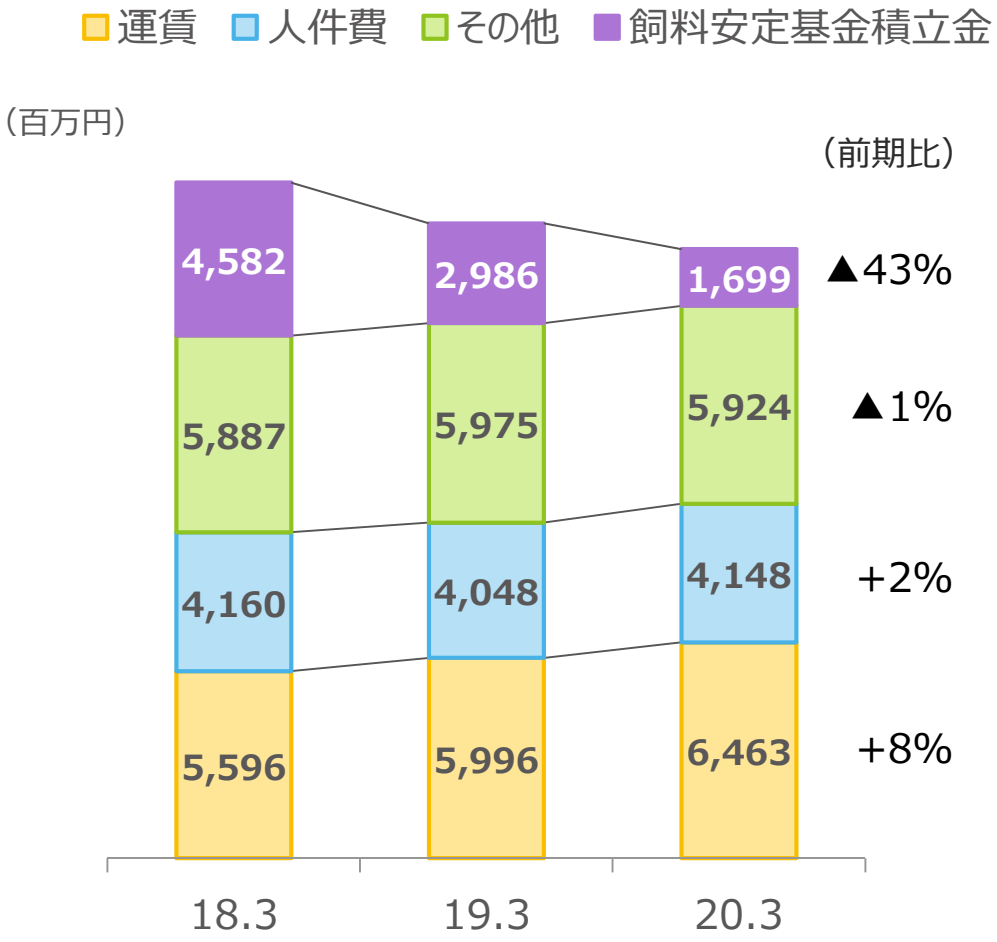
▶ 積立金推移（飼料メーカー）



販管費・特別損益詳細

販管費

◆ 飼料安定基金積立金減額により減少



特別損益

◆ 前期関西工場跡地売却により特別利益減

（百万円）

内容	19.3	20.3
関西工場跡地売却※	1,681	0
固定資産売却(※除く)	73	▲ 4
投資有価証券売却	327	106
固定資産除却	▲ 78	▲ 44
減損損失	▲ 125	▲ 4
農場子会社整理	▲ 76	22
その他	▲ 75	▲ 107
合計	**1,727**	**▲ 30**

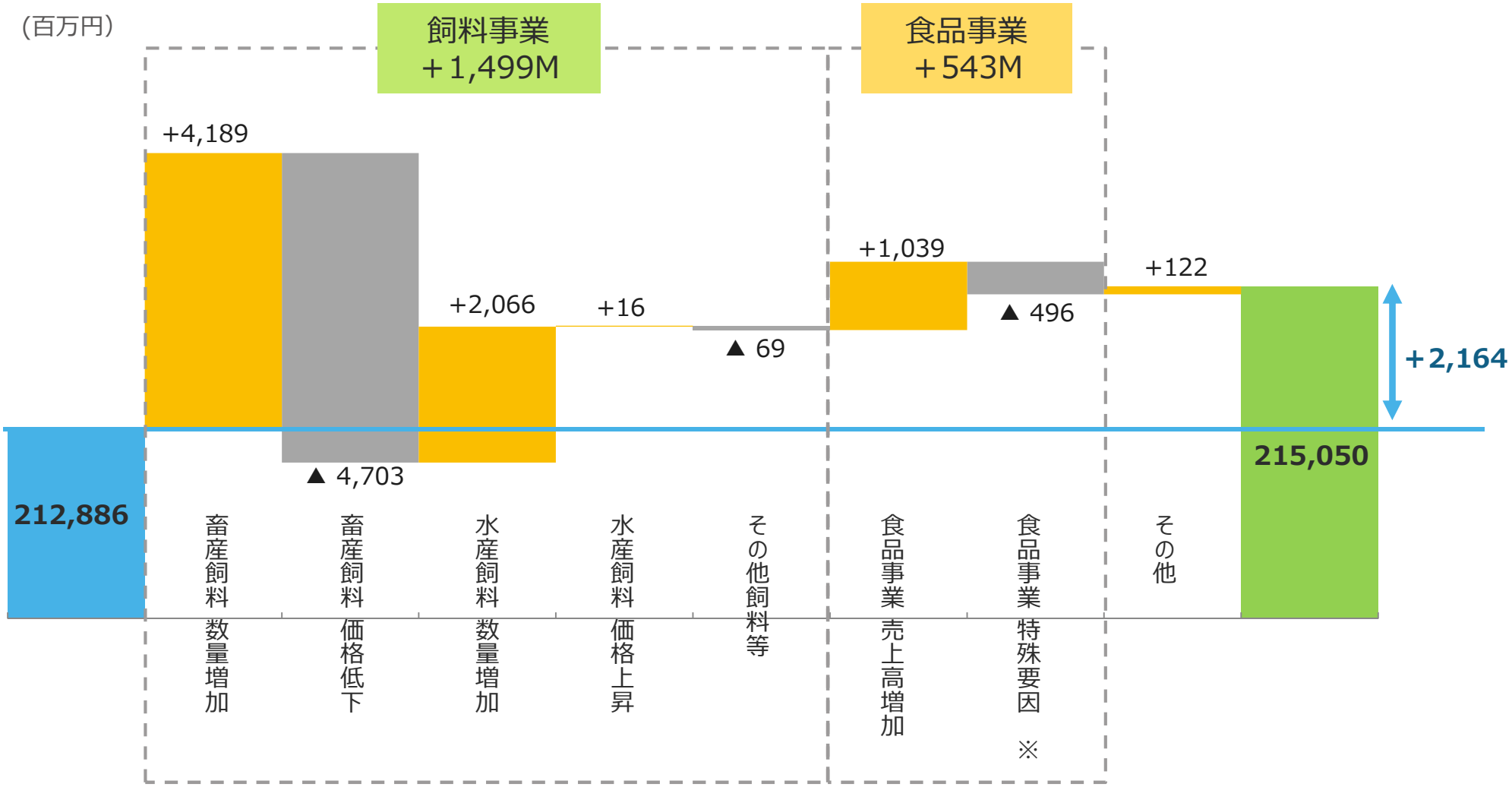
2020年3月期セグメントの状況

（百万円、%）

		2019.3期	2020.3期	前期差	前期比	コメント
飼料事業	売上高	161,026	**162,525**	1,499	＋ 0.9	販売数量増加し増収、畜産飼料の販管費減少、水産飼料の原価低減により増益
	ｾｸﾞﾒﾝﾄ利益	5,723	**7,028**	1,305	＋ 22.8	
食品事業	売上高	49,248	**49,791**	543	＋ 1.1	販売数量増により増収も、原料相場による売差減や運賃増により減益
	ｾｸﾞﾒﾝﾄ利益	442	**393**	▲ 48	▲ 11.0	
その他	売上高	2,612	**2,733**	121	＋ 4.6	関連資材販売数量増加により増収増益
	ｾｸﾞﾒﾝﾄ利益	317	**361**	44	＋ 13.9	

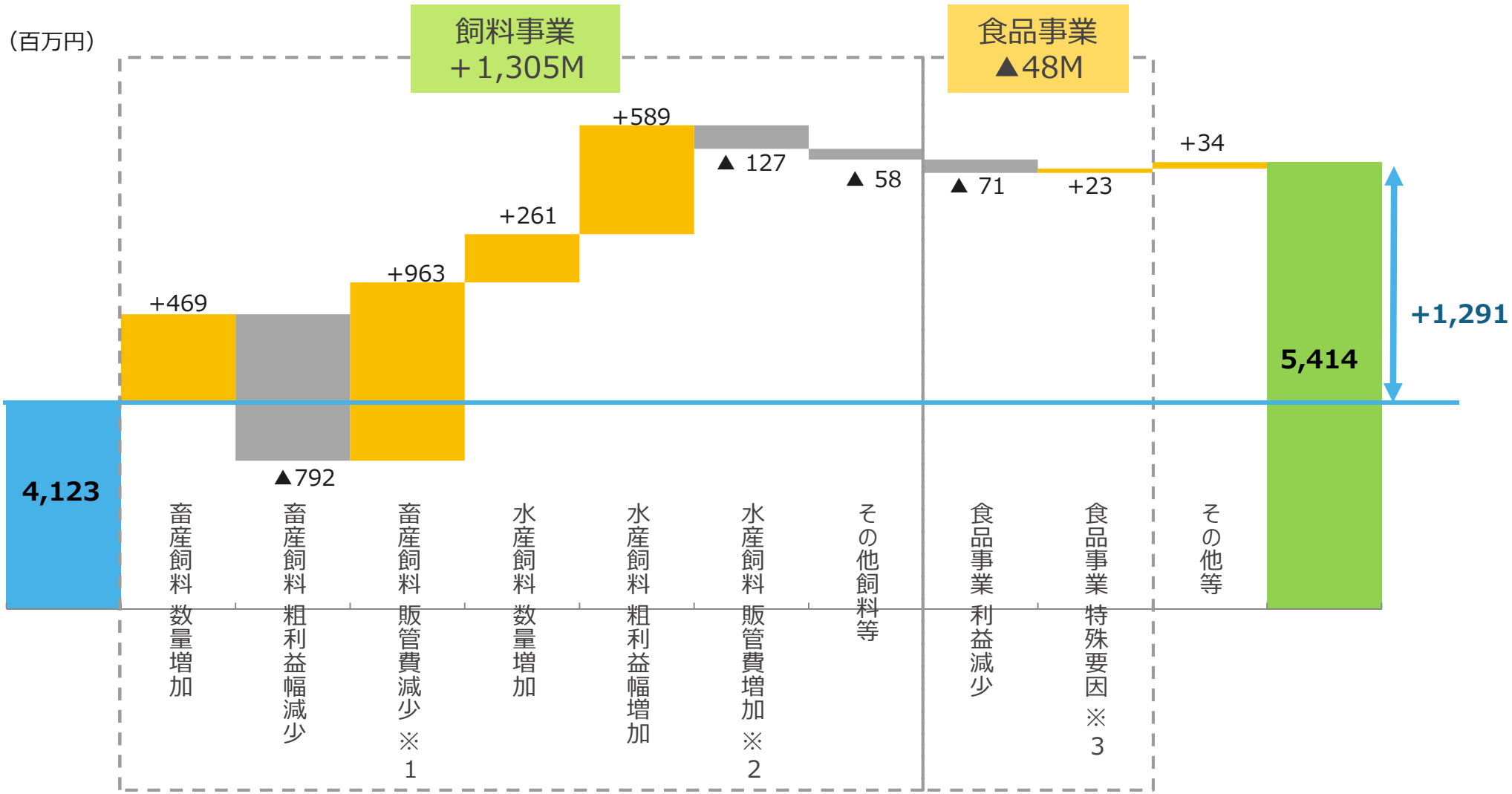
販売数量	2019.3期	2020.3期	前期比	コメント
畜産飼料	339万ﾄﾝ	**348万ﾄﾝ**	＋3% （通期計画：+2%）	牛用＋4%、豚用+2%、ブロイラー用▲3%、採卵鶏用＋4% （通期計画：牛用＋3%、豚用＋2%、ブロイラー用 +5%、採卵鶏用＋1%）
水産飼料	8.5万ﾄﾝ	**9.7万ﾄﾝ**	＋14% （通期計画：+11%）	海産魚用+16%、淡水魚用▲4% （通期計画：海水魚用＋11%、淡水魚用＋16%）

売上高 増減要因



※ ㈱栗駒ファーム▲220百万円、㈱金成ファーム▲142百万円、㈱東白川ファーム▲133百万円
（３社ともに前期に会社分割・清算）

営業利益 増減要因



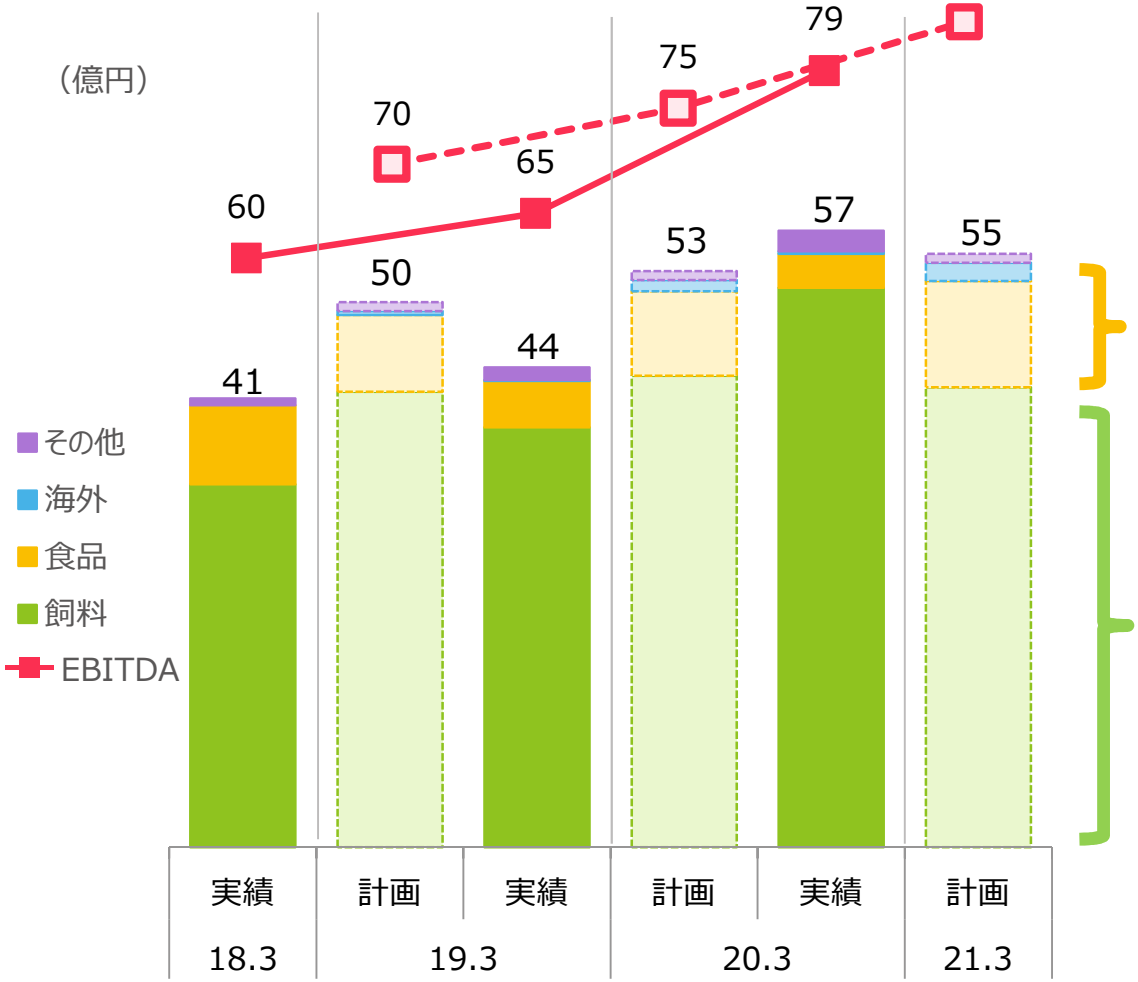
※1　飼料基金負担金減少　＋1281百万円、運賃積込費増加　▲269百万円、人件費増加　▲110百万円
※2　運賃積込費の増加　▲80百万円
※3　㈱栗駒ファーム＋28百万円、㈱金成ファーム▲1百万円、㈱東白川ファーム▲4百万円（3社とも前期に会社分割・清算）

第2次中期経営計画の進捗

基本方針

更なる経営基盤強化のための『事業ポートフォリオの最適化』

事業別経常利益



設備投資額

実績・直近計画	38	79	73
中計計画	61	138	26

※海外事業は持ち分法適用会社

事業戦略

成長事業の拡大

2．食品事業～ブランド力の強化～

- ◆ 製造・販売体制の再構築
- ◆ 相場取引リスクの低減

3．海外事業～収益基盤の確立～

- ◆ 販売力の強化

基幹事業の強化

1．飼料事業～生産設備の基盤強化～

- ◆ 生産設備への積極的投資
- ◆ 生産コストの低減追及

各事業戦略の進捗状況

	具体策	達成状況	今後の課題
飼料事業	北九州畜産工場建設	○	■ 新工場・設備へのスムーズな移行 ■ 設備増強は順調であり、それに準じて販売数量を増加させる
	加熱加工製品の製造設備強化	○	
	製造の効率化	○	
	原料コスト低減	◎	
食品事業	フィード・ワン フーズ設立	○	■ 市況に左右されにくい仕入・販売体制の構築 ■ ブランド生産物の販売拡大
	取引条件の改定	△	
	ブランド商品の開発	○	
海外事業	販売地域拡大	◎	■ 販売数量増加に伴う設備増強
	設備投資	○	

◎＝達成　○＝取組中　△＝遅延

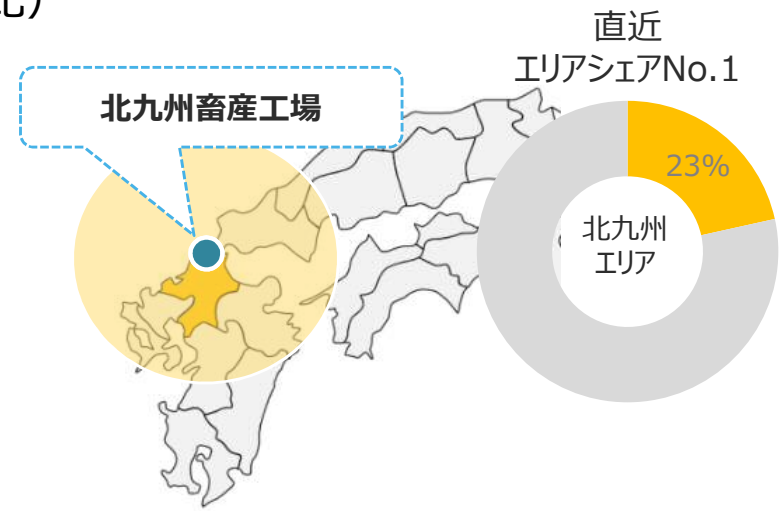
主な取り組み　～飼料事業～

北九州畜産工場建設
進捗状況：出荷開始2020年7月を予定

老朽化した飼料製造子会社「門司飼料㈱」に代わり、最新鋭の畜産工場を建設

⇒　生産効率14%UP（門司飼料㈱対比）

北九州畜産工場

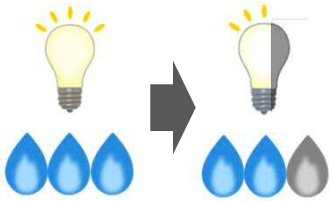


【工場概要】
場所：福岡県北九州市
敷地面積：43,692㎡
製造能力：約40万ﾄﾝ／年
投資金額：約116.5億円

【参考】北九州畜産工場　～SDGs対応の次世代工場～

◆ フィード・ワンが実現するSDGs対応の次世代 製造ソリューション

省エネ

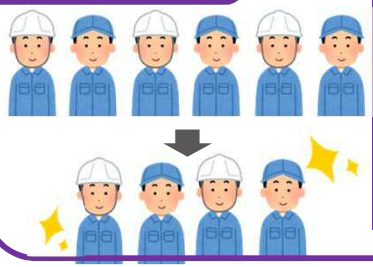


- ✓ 工程別の電力量・蒸気量の徹底した管理と制御
- ✓ 発生するエネルギー量の当社比30%削減を目指す

IoT

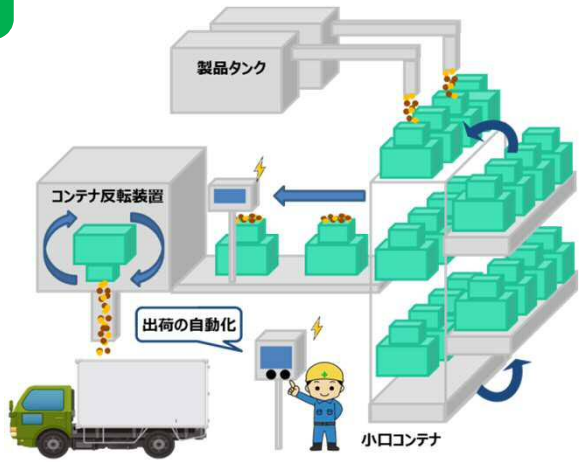
- ✓ 最新のインターネット受注システムを導入
- ✓ 顧客の注文作業軽減と在庫状況や製造・出荷まで管理

省人化



- ✓ 従来の工場設計を見直し作業エリアを1フロアに集約
- ✓ 作業性の効率化UPにより人員33%減に(門司飼料比)

自動化



- ✓ 最新の24時間無人自動出荷設備を導入し配送会社の待ち時間軽減と省人化を実現

品質

- ✓ 最新鋭の加工設備を導入し高品質の製品を安定供給
- ✓ トレーサビリティの徹底

主な取り組み　～食品事業～

ブランド商品の開発は順調に進展

◆ コンシューマー向け新製品の発売

- 既存商品「国産豚白もつ」、「勝負のもつ煮込み」に加え、「やみつきホルモン(焼肉味、黒山椒味)」「豚ギスカン」、「豚白もつ煮込用」を発売

年間を通じて安定的な販売可能に

春　夏　秋　冬

既存製品

新製品

◆ 銘柄豚の開発

- スケジュールを前倒しし「瑞穂のみらい豚」を発売
- お米を中心とした専用飼料を給与することで柔らかくジューシーでさっぱりとした味わいの豚肉

瑞穂の
みらい豚

【スケジュール】

	19.3期	20.3期	21.3期
おいしさ分析			
ｻﾝﾌﾟﾙ確認と集荷			
MD/BYの意向確認			
製品企画書作成			
提案書作成			
販売開始			

（現計画）

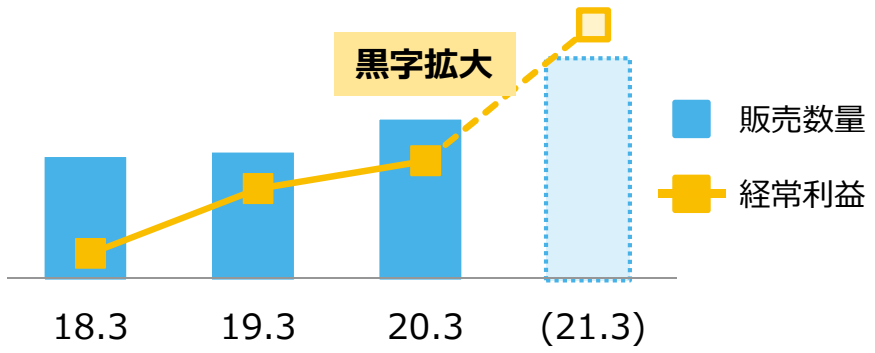
計画　実績

主な取り組み　～海外事業～

ベトナム

Kyodo Sojitz Feed Co. Ltd.
販売地域：北部、南部地域へ拡大
設備投資：設備投資により製造コスト低減

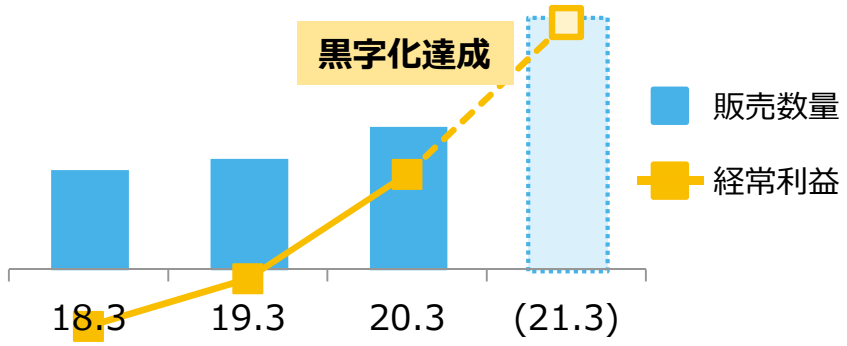
- 業績
  - アフリカ豚熱流行で豚飼養頭数の20%以上が殺処分になり、主力の豚用飼料販売数量は減少するも、家禽・牛用飼料の発売でカバー
  - 販売数量、収益ともに拡大
- 今後の取り組み
  - 定期研修、商材拡大による営業力強化
  - 工程自動化、出荷設備増強による生産効率の向上



インド

NIPPAI SHALIMAR FEEDS PVT. LTD.
販売地域：営業力強化により主要生産地へ拡大
設備投資：来期に持ち越し

- 業績
  - エビ用飼料の販売数量増加を中心に、販売数量は大幅に伸長
  - 利益も創業以来初の黒字化を達成
- 今後の取り組み
  - 大手エビ養殖業者への販売拡大
  - 製造設備へ投資等により生産性と強みである品質の向上に取り組む



2021年3月期 業績予想

2021年3月期　業績予想

畜産・水産飼料の販売数量増により増収も 減価償却増により微増益を予想

（百万円、%）

	2020.3期		2021.3期		
		構成比		構成比	前期比
売上高	215,050	100.0	**226,400**	100.0	＋5.3
売上原価	191,401	89.0	**202,000**	89.2	＋5.5
販管費	18,234	8.5	**18,800**	8.3	＋3.1
営業利益	5,414	2.5	**5,500**	2.4	＋1.6
経常利益	5,737	2.7	**5,800**	2.6	＋1.1
親会社株主に帰属する当期純利益	3,842	1.8	**4,000**	1.8	＋4.1
設備投資	7,934	-	**7,270**	-	▲8.4
減価償却費	2,513	-	**3,195**	-	＋27.1

※前提：飼料安定基金積立金は500円/ﾄﾝと想定

2021年3月期　セグメント別予想

（百万円、%）

		2020.3期	2021.3期			
				前期差	前期比	コメント
飼料事業	売上高	162,525	**169,800**	7,274	＋4.5	販売数量増加を予定し増収 利益は設備投資増加により微増
	ｾｸﾞﾒﾝﾄ利益	7,028	**7,100**	72	＋1.0	
食品事業	売上高	49,791	**53,900**	4,110	＋8.4	販売数量増加と高利益商品拡売等により増収増益
	ｾｸﾞﾒﾝﾄ利益	393	**600**	206	＋52.2	
その他	売上高	2,733	**2,700**	▲34	▲1.3	資材関係の減収減益
	ｾｸﾞﾒﾝﾄ利益	361	**200**	▲161	▲44.6	

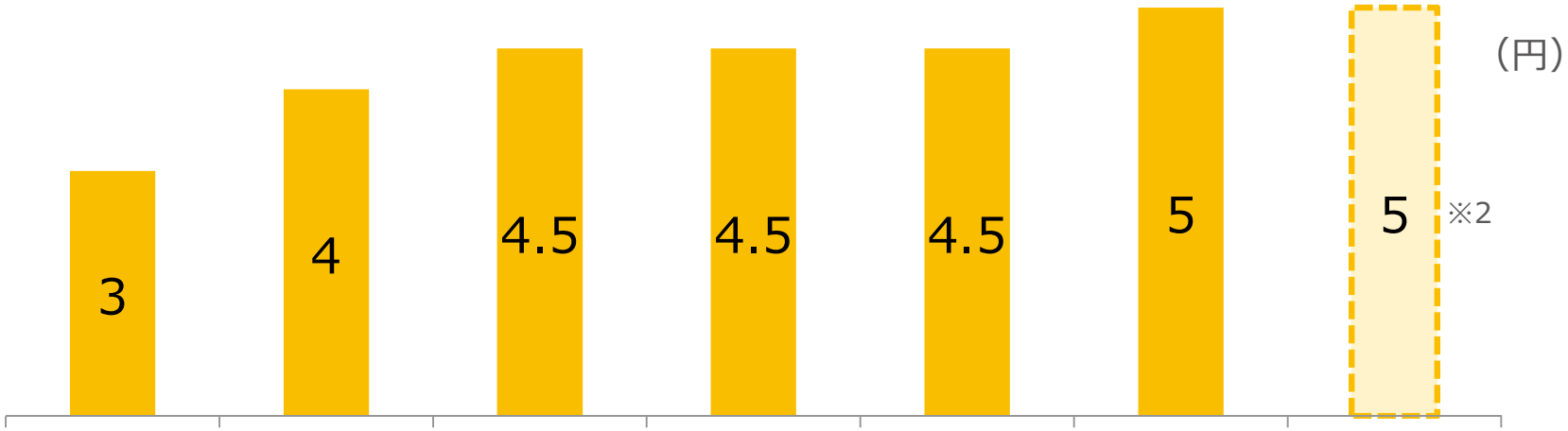
販売数量	2020.3期	2021.3期		
			前期比	コメント
畜産飼料	348万ﾄﾝ	**351万ﾄﾝ**	＋1%	牛用＋1%、豚用+3%、ブロイラー用+3%、採卵鶏用▲2%
水産飼料	9.7万ﾄﾝ	**10万ﾄﾝ**	＋3%	海産魚用+3%、淡水魚用＋3%

株式関連事項

株主還元

20年3月期は5円へ増配を予定

【第2次中期経営計画株主還元方針】
当社は株主への利益還元として「配当」を重視しております。
安定した配当を基本とし、企業価値向上に向けた基盤強化の為の「設備投資」「研究開発」「人材育成」に積極的な投資を行いながら、連結配当性向25%以上を目標といたします。



	15.3	16.3	17.3	18.3	19.3	20.3	(21.3)
親会社株主に帰属する当期純利益（百万円）	1,906	2,308	3,937	2,971	4,657 ※1	3,842	(4,000)
EPS（円）	12.41	11.71	19.98	15.08	23.66	19.53	(20.26)※2
配当性向	24.2%	34.2%	22.5%	29.8%	19.0% ※1	25.6%	(24.6%)

（※1） 19.3期 関西工場跡地売却に伴う特別損益1,681百万円、更に税金等控除後配当性向26.2%
（※2） 21.3期の1株当たり配当、EPSについては20.3末の発行済株式数で算出

トピックス　～株式併合・中間配当のお知らせ～

株式併合

◆ 売買単位変更日：2020年10月1日　※1

（※1）2020年9月30日終値の5倍が10月1日の基準値となります

◆ 併合の割合

５株 → **１株**

◆ 併合による影響（1,000株保有の場合）

	株式併合前	株式併合後
保有株式数	1,000株	200株
議決権数	10	2

中間配当

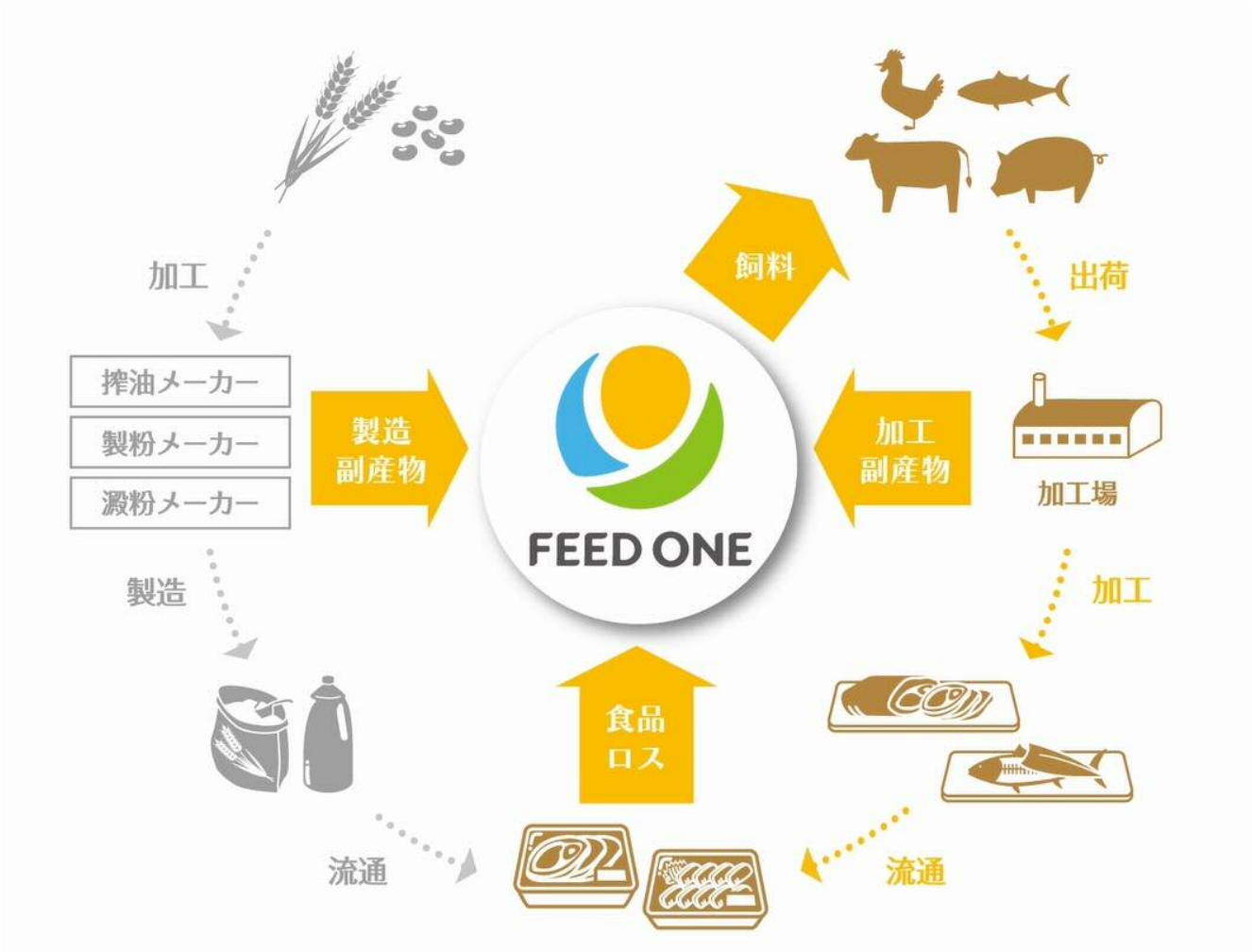
◆ 中間配当開始：今期（2021年3月期）より

◆ 今期の配当予定：中間配当：2.5円、　期末配当：12.5円　※2

（※2）株式併合を考慮しない場合の2021年３月期（予想）の１株当たり期末配当金は2.5円となり、
１株当たり年間配当金は5.0円となります

最後に

私たちの使命は皆様の食卓に安心・安全な「食」を安定的にお届けすることです
これからも社会と共に発展を続けるべく邁進いたします



おいしさのみなもと

FEED ONE

本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、
その情報の正確性を保証するものではありません。
また、様々な要因の変化により実際の業績や結果とは異なる可能性があることをご承知おき下さい。

当資料に関するご質問・お問い合わせにつきましてはこちらまでご連絡ください。
info@feed-one.co.jp

参考資料

飼料事業の取り組み

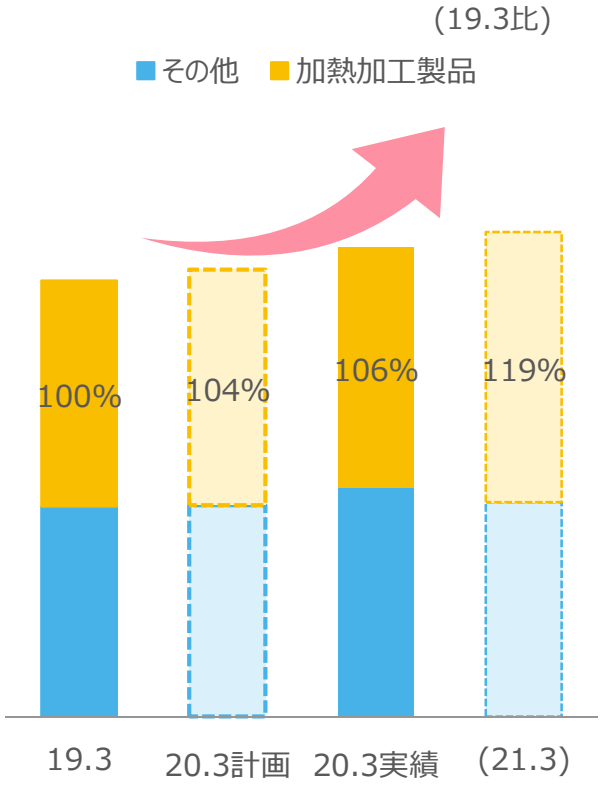
加熱加工製品の製造設備強化は順調に進展

- 加熱加工製品とは蒸気をかけ、消化・吸収率を向上させた飼料で近年、鶏・豚用飼料で需要増加しつつある
- 背景として効率的な飼料給与、消化・吸収率向上のニーズの高まりや出荷日数の短縮による栄養要求量の上昇がある

◆ 加熱製品設備増強計画
　鹿島工場、東北飼料、志布志飼料　計3工場
合計生産能力18.3時点520千ﾄﾝ→21.3時点630千ﾄﾝ

◆ 計画通り設備強化し、加熱加工製品出荷数量増加

3工場の加熱加工製品生産数量計画



飼料事業の取り組み

製造の効率化はほぼ計画通り進捗

◆ 製造ライン増設等新しい設備導入
- 製造ライン・タンク等増設を進める
- 中計計画：7工場
- 進捗：実績4工場

（状況の変化に対応し、一部延期を行った）

◆ 製造システムの更新
- 計画通り製造関係システムを更新
- 中計計画：3工場
- 進捗：実績3工場

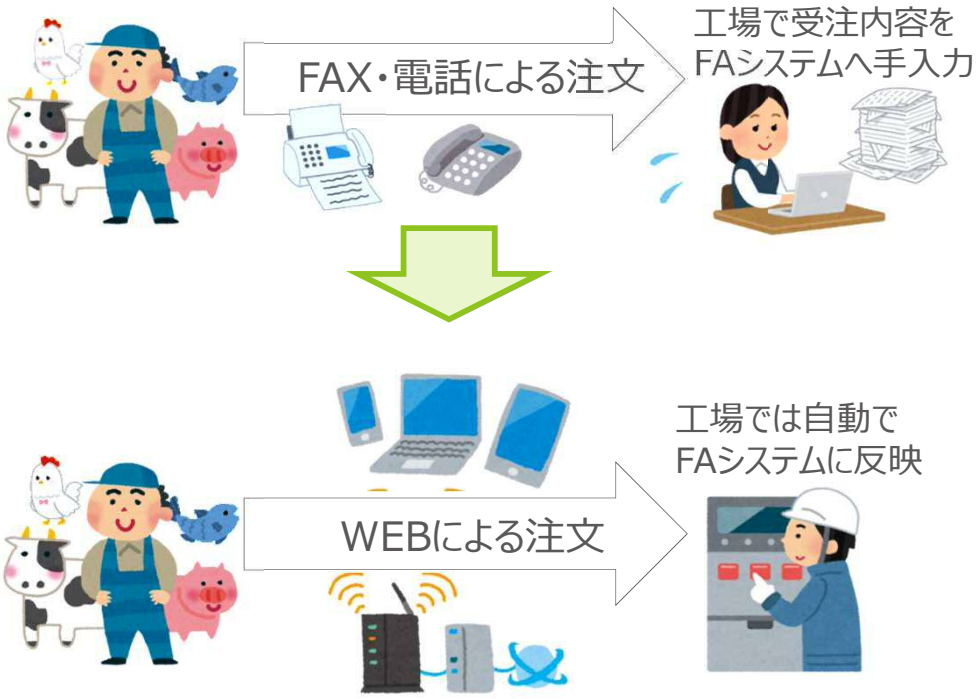
（計画外の工場も更新）

◆ 水産飼料製品数の集約
- 中計計画：製品数31%削減
- 遅延：実績17%削減

（顧客対応により一部製品数増加）

製造システムの更新～WEB受注システムの導入～

➢ 従来の電話・FAXでの受注を WEB受注に変更したことにより、省力化、ヒューマンエラーリスク削減



飼料事業の取り組み

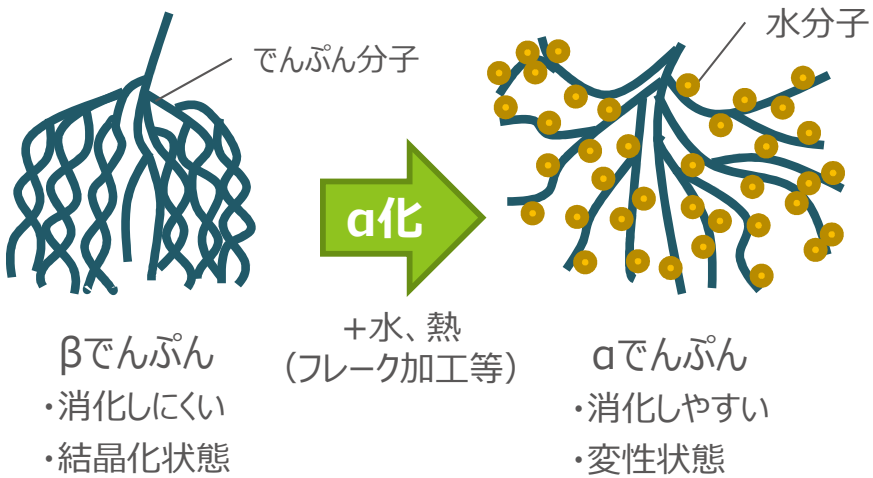
原料コスト低減は順調に進捗

◆ 原料コスト低減総額：20.3期 **481百万円/年**（計画比+48%）

➢ 取り組み例（産地多様化：ブラジル産とうもろこしの使用拡大）

- ブラジル産とうもろこしはα化が十分にできない等フレーク加工に不向きであったが、近年、ブラジルでの増産により価格メリットが増加
- 研究所で試験を重ね、工場毎のブラジル産とうもろこし使用スキームを確立
- ほぼ全工場でブラジル産とうもろこしをアメリカ産と同等にα化したフレークへの加工が可能に

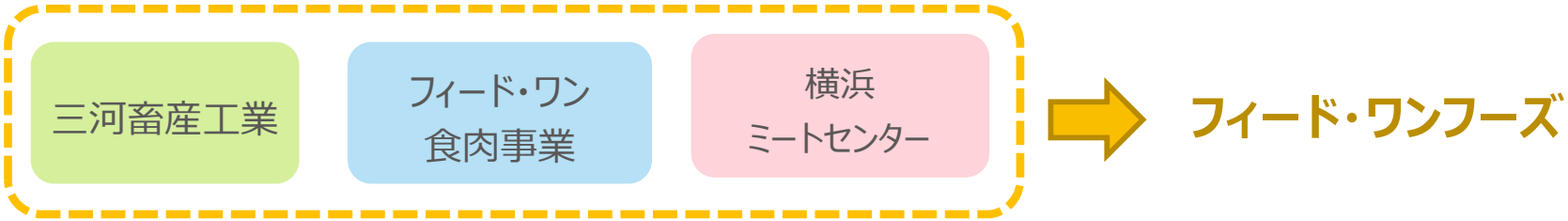
	アメリカ産とうもろこし	ブラジル産とうもろこし
粒	大	小
でん粉層	側面	全面
α化	○	△

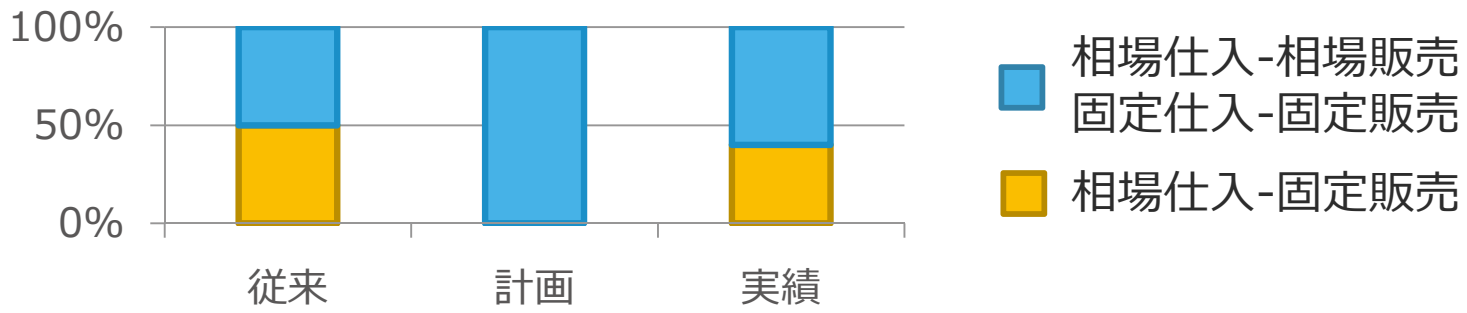


食品事業の取り組み

フィード・ワンフーズ㈱を設立するもシナジー効果発現には遅れ

- 豚肉事業を統合し、効率的な経営を行うことを目指し、
  2018年7月　フィード・ワンの食肉事業と関係会社2社を統合してフィード・ワンフーズ㈱を設立
- 計画通り設立したが、豚の疾病（CSF：豚コレラ）や新型コロナウイルスの流行等といった想定外の事象が続き、統合効果は計画を下回った



取引条件の改定は遅延

- 豚肉の仕入れ販売において、相場変動リスク低減を目的として取引条件改定を進めるも遅延